

ORACLE ENTERPRISE MANAGER 10^g MANAGEMENT PACK FOR WEBLOGIC SERVER



Oracle WebLogic Server のための完全で業界唯一の管理ソリューション

機能

- アプリケーション・インフラストラクチャ全体に対する一元管理コンソール
- アプリケーション・パフォーマンスの事前監視
- アプリケーション・サービスとその基盤となるコード・コンポーネントの関連付けによるアプリケーション可視性の向上
- POJO フレームワークを使用したアプリケーションの監視
- ミドルウェア構成と、その基盤ホストおよびオペレーティング・システムの検出と資産追跡の自動化
- カスタマイズ可能な標準の検索および比較機能を使用した構成に関する検索の最適化
- 変更履歴を追跡することによる構成管理機能の強化
- 変更管理システムとの統合
- 構成の変更をリアルタイムで検出し、予測される変更の確認と不正なアクションによる影響の最小化を実施
- 米国サーベンス・オクスリー (SOX) 法や PCI などのベスト・プラクティス・ポリシー、規制基準および業界標準への準拠を保証
- パッチの可視性とクリティカル・パッチ・アドバイザ
- ミドルウェアとオペレーティング・システムのプロビジョニングおよびパッチ適用

利点

- モデル駆動型診断による、アプリケーションのパフォーマンス問題の迅速な解決と根本的原因分析
- 停止時間の回避によりサービスを改善し、設定変更の管理によりコンプライアンスを遵守
- エラーが発生しやすい手動操作を自動化することでコストを削減

多くの組織では、Oracle WebLogic Server を使用してエンタープライズ Java および SOA アプリケーションを強化しています。予期せぬサービス停止の防止や原因不明のボトルネックに対する迅速かつ効果的な解決は、大きな関心事です。Oracle Enterprise Manager 10g Management Pack for WebLogic Server では、Oracle WebLogic Server と Oracle Application Server を管理するための完全に統合された、使いやすいソリューションを提供しています。複数の Oracle WebLogic ドメインで、強力なアプリケーション・パフォーマンス管理、構成管理、コンプライアンス管理、および操作自動化の機能を使用できます。

アプリケーションのパフォーマンス管理

Oracle Enterprise Manager 10g Management Pack for WebLogic Server は、パフォーマンスのボトルネックの自動的な早期識別、Oracle WebLogic Server 環境で実行されているアプリケーションのモデル駆動型診断などの独自機能によって、アプリケーションのパフォーマンス管理を大幅に改善します。Oracle Enterprise Manager は、Java EE アプリケーションの"機能を実現するロジック"に対して可視性を得られる唯一のツールです。測定値の実行コンテキスト全体を監視したまま、URL から Java コードの問題がある部分に至るまで、ユーザー・フレンドリーな根本原因分析機能を提供します。

Java EE におけるアプリケーション・インフラストラクチャ可視性の向上

最近の標準 J2EE アプリケーションを構成する共有コンポーネント、Web サービス、アプリケーション・サービスのコンテキストを管理する際、ほとんどのエンタープライズ Java アプリケーションで可視性に関する大きなギャップが生じています。このアプリケーション・レイヤーを監視するには、特別な可視性と専門知識が必要です。Management Pack for WebLogic Server は、監視のためのサービス・エンド・ポイントを自動的に検出し、最上位レベルの視点からエンタープライズ Java アプリケーションへのインコンテキスト・ドリルダウンを提供して、パフォーマンスの最適化を支援する唯一のソリューションです。

モデル駆動型診断による、問題解決時間の短縮

エンタープライズ Java アプリケーションは、複雑であるがゆえに、問題が発生した場合に独特の課題がつかまといまいます。ユーザー・インタフェースの集約と Web サービスにより、ユーザーのリクエストするもの (標準 URL など) とアプリケーションがトランザクションを実行する方法との間で、可視性のギャップが生じます。Management Pack for WebLogic Server は、コール・パスを表示するアーキテクチャ・ビューを提供することで問題を診断する独自の機能を備えています。このソリューションを使用すると、ドリルダウンによって特定のメソッド・コールのパフォーマンスを表示でき、さらに JDBC/SQL コールの詳細を追跡することもできます。

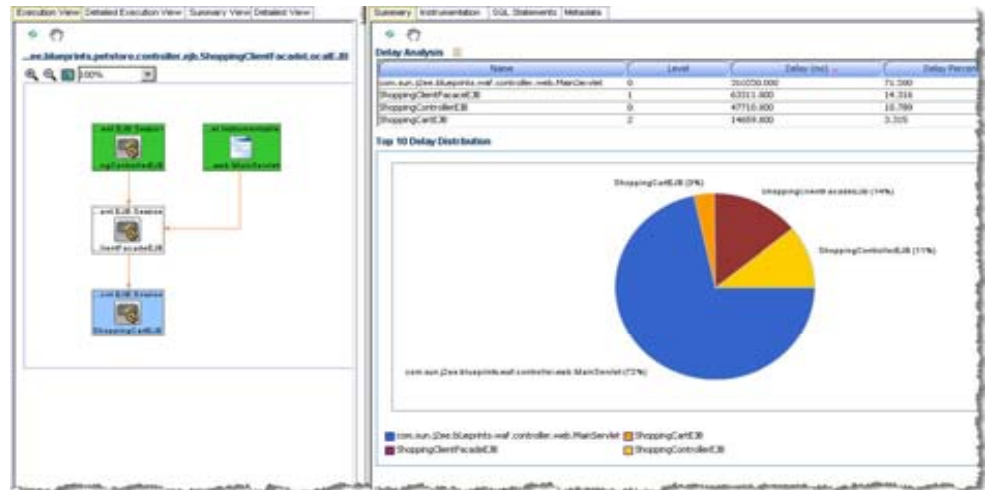


図 1: コール・パスのアーキテクチャ・ビューとメソッドのドリルダウン

POJO フレームワークの監視

広く知られる POJO フレームワーク（Apache Struts など）は、Oracle WebLogic Server に配置された Java EE アプリケーションとともに、組織で使用されます。多くの場合、オペレータはこうしたフレームワークのパフォーマンスを確認できません。Management Pack for WebLogic Server では、監視のために POJO クラスのカスタム・メトリックを追加でき、POJO フレームワークを使用するアプリケーションでのパフォーマンスの問題診断が容易になります。

構成管理

本番アプリケーション環境におけるパフォーマンス低下のほとんどは、構成の不正な変更が原因で発生します。Oracle WebLogic Server を使用している組織のほとんどは、構成管理とコンプライアンス標準の遵守に頭を悩ませています。このパックは、包括的な構成管理機能を提供することによって、顧客が IT 資産の価値を最大化して IT サービスの品質を高めながら、IT の管理コストを削減し、IT コンプライアンス要件に適合させることを可能にします。

検出の自動化と資産の追跡

従来、IT 環境全体の資産および構成項目の追跡は、資産と構成を把握している鍵となる人物、時間のかかる非定型処理、およびエラーが発生しやすい手動のスプレッドシートに依存してきました。それに対し、Management Pack for WebLogic Server では、Oracle WebLogic Server、Oracle Application Server、およびミドルウェアが常駐する、基盤のハードウェアとオペレーティング・システムに関する詳細な構成情報を自動的に収集します。Oracle WebLogic Server と基盤のオペレーティング・システムに関して、どの構成アイテムを収集する必要があるかは、構成テンプレートまたはブループリントを使用して指定します。これらはすぐに使用可能であり、IT 担当者に必要かつ重要な構成アイテムのみを収集するようにカスタマイズできます。一定間隔で収集される情報には、以下が含まれます。

- CPU、メモリ、ストレージ、ネットワーク・デバイスを含むハードウェア情報
- オペレーティング・システム・パッチ、カーネル・パラメータ設定、およびインストール済みのパッケージ
- Oracle WebLogic Server の構成パラメータと構成ファイル
- 個別パッチ、パッチ・セット、コンポーネント（Oracle Web Cache、HTTP Server、Oracle Containers for Java EE）、その他の構成設定を含む、インストール済みの Oracle Application Server ソフトウェア

構成変更の検出

また、Management Pack for WebLogic Server は、スタック全体（ハードウェアからアプリケーションまで）の長期にわたる構成変更を追跡する機能を提供します。この機能を使用することで、管理者は特定の構成に対して一定期間でおこなわれた変更を簡単に監視できます。ユーザーはこの機能を利用することで、それまで正常に機能していたシステムのパフォーマンスが突然許容レベルを下回る場合に、システムに適用された変更を素早く確認できます。

構成変更の追跡に加えて、管理者はこのパックを使用し、リアルタイムで変更を検出することもできます。変更管理システムと統合することで、このパックは構成変更が認可されたものなのか不正なものなのかを通知できます。リアルタイムの変更の検出により、監査証跡が自動化され、コンプライアンス違反の発見にかかる時間が最小化されます。

構成の比較とプロビジョニング

システムの構成を標準のベースラインに保ち、発生した構成変更を認識することは、組織が"構成のずれ"を減らし、計画した変更を実施するかどうかを確認したり、実施された場合の日時を確認したりするのに役立ちます。Management Pack for WebLogic Server で提供される一連の比較機能を使用することで、管理者はアプリケーションのライフ・サイクル（開発からテスト、さらには本番まで）にわたって、構成の差異を素早く簡単に特定できます。また、管理者は既存の構成からベースラインを作成し、この優れた標準構成または現在のシステムを使用して、臨時または定期的に 1 対 1 または 1 対多の比較をおこないます。

環境全体で予想外の構成の差異が検出された場合は、このパックを使用して構成をプロビジョニングし、環境の差異をなくすことができます。これにより、管理者が構成の問題を解決するために費やす時間が短縮されます。

標準へのコンプライアンスの確保

今日の企業は、米国サーベンス・オクスリー（SOX）法、IT インフラストラクチャ・ライブラリ（ITIL）、クレジットカード業界（PCI）のデータ・セキュリティ標準といったコンプライアンス・フレームワークの実装を進めています。これらの標準、および独自のビジネス標準への準拠は難題です。Management Pack for WebLogic Server には、Oracle WebLogic Server および Oracle Application Server のための事前定義された複数のポリシーが同梱されています。ユーザーはそれらを使用して独自のポリシーやグループを定義し、さまざまな規制や標準へのコンプライアンスを素早く実証できます。

また、Oracle Enterprise Manager ではパフォーマンス・メトリックと同様の方法で、このようなポリシー違反が追跡され、違反に対して通知ルールを使用し、修正処理を割り当てることができます。たとえば、開いた状態のポートが検出される場合、自動的にこのポートを閉じる修正処理を定義できます。



図 2: 標準へのコンプライアンスのレベルを示すダッシュボード

ライフ・サイクルとパッチの自動化

Management Pack for WebLogic Server は、ソフトウェア、アプリケーション、およびパッチの配置を自動化します。IT 管理者はこのソリューションを使用して、ソフトウェア・スタック全体をオペレーティング・システムからミドルウェア、アプリケーション・データベースに至るまでプロビジョニングできます。Enterprise Manager は、Oracle Application Server および Oracle Management Agents のための Oracle パッチの配置を自動化します。このアプリケーションでは、サービスの起動と停止を適切に管理し、さまざまなユースケースに合わせて事前および事後のパッチ適用スクリプトを実行できます。こうした柔軟性により、複雑な多層環境でも大量の個別パッチとパッチ・セットの配置が可能です。

注：Oracle WebLogic Server のプロビジョニングとパッチ適用のサポートは、将来のリリースで使用可能になります。

お問い合わせ

Management Pack for WebLogic Serverの詳細は、
<http://www.oracle.com/technology/global/jp/products/oem/index.html> をご覧ください。

 | Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなるほかの保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。0109